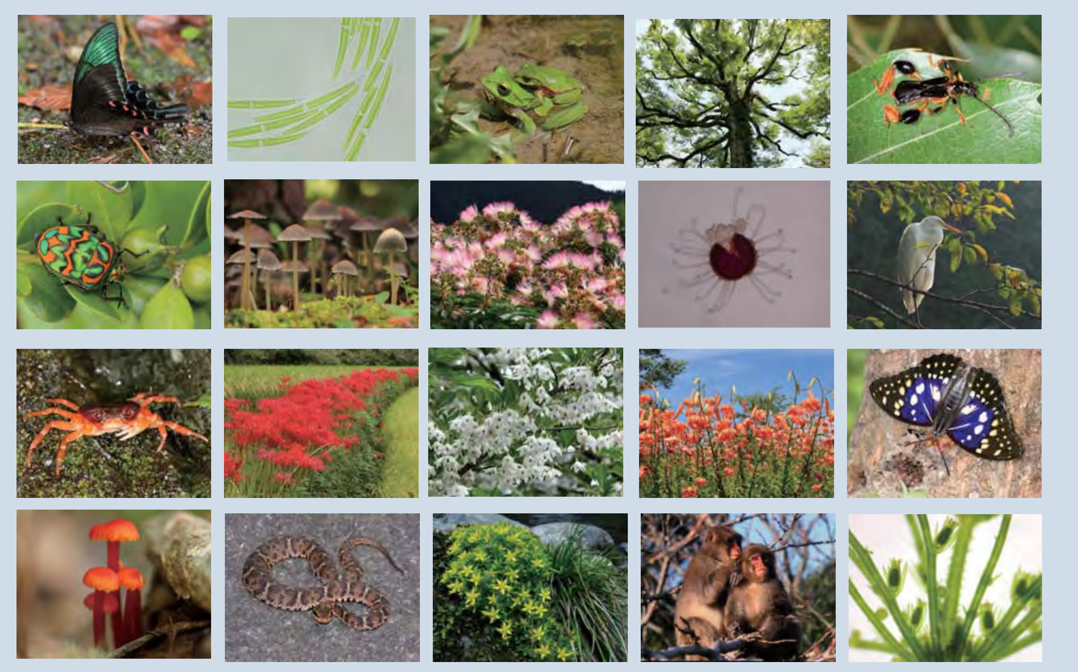
地球規模生物多様性情報機構 (GBIF):
生物多様性情報の収集と活用

GBIF.org
http://www.gbif.org/

細矢 剛 [*1]・水沼 登志恵 [*1]・海老原 淳 [*1]・神保 宇嗣 [*1]・中江 雅典 [*1]
川本 祥子 [*2]・倉島 治 [*3]・伊藤 元己 [*3]
[*1]: 国立科学博物館，[*2]: 国立遺伝学研究所，[*3]: 東京大学大学院総合文化研究科

1. 生物多様性情報とは？

おもに種の多様性に関する情報
- 分類群名情報
- 種の在情報（分布情報）
- 種情報（形態・分布域・種間相互作用・・・）
- ・・・



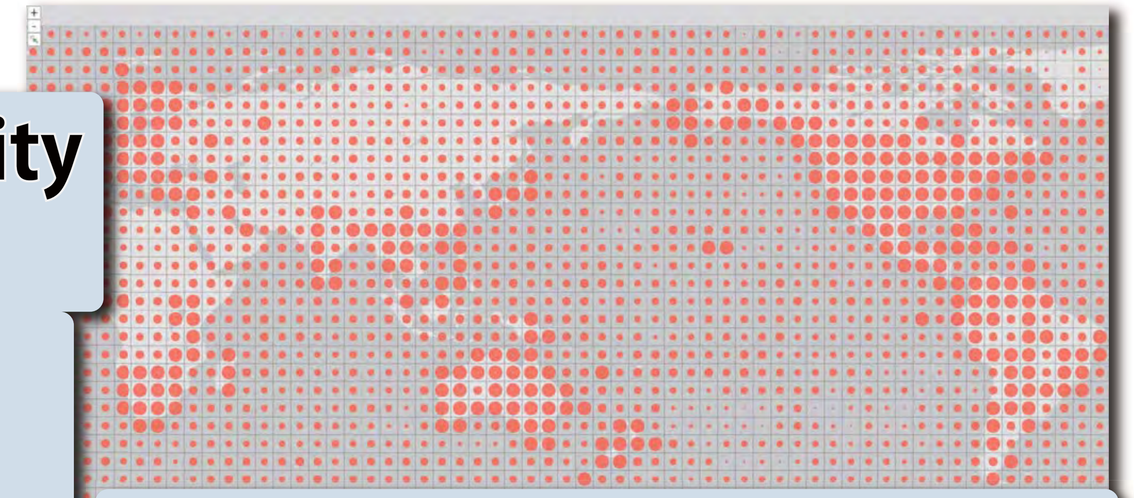
生物における基盤情報

2. GBIFとは？

Global Biodiversity Information Facility
地球規模生物多様性情報機構

誰もが、生物多様性情報を利用可能になるインフラ構築を目的とする国際プロジェクト

Darwin Core (生物多様性情報の標準項目) で統一したデータを用意し、横断利用に配慮



875,954,331件の生物在データの検索・ダウンロードが可能 (緯度経度付き在データは、796,326,087件)
https://www.gbif.org/occurrence/map

GBIFを使うと・・・

▶**在**情報　　　：いつ・どこで・どの種が確認されたかの情報が得られる。
▶**種**名・種情報：分類群名や種の分布域の情報が得られる。
▶**オ**ープン　　：8億以上のデータ、その多くをオープンデータとして得られる。

GBIF 戦略 (2017-2022)	国内戦略	
Deliver relevant data →	科学・社会へ必要なデータを提供	ユースケース収集、データ利用者・提供者への教育普及
Improve data quality →	データの質向上	データバリデーション方法の確立、補助ツールの整備、能力育成
Fill data gaps →	データギャップ解消	蓄積・公開データの把握、データ提供の呼びかけ・サポート
Enhance biodiversity information infrastructure →	インフラストラクチャーの充実	標本情報収集・公開の実施体制強化、情報システムの安定運用
Empower global network →	関連活動との交流促進	博物館・研究機関・行政・市民との交流・連携、アジアでのリーダーシップ

3. GBIF日本ノード (JBIF: Japan Node of GBIF)

JBIF ポータルサイトを通した情報提供

GBIF に関連する情報窓口
- **和**名によるGBIFデータ検索
- **自**然史情報関係の研究会・イベント情報の掲載
- **ガ**イド・マニュアル(GBIF英語版/翻訳版)の掲載
- **デ**ータ形式・データ登録方法などの情報掲載

http://www.gbif.jp/v2/

データの集積と発信

データ収集 → データ集約 → データ標準化 → データ出版

標本情報

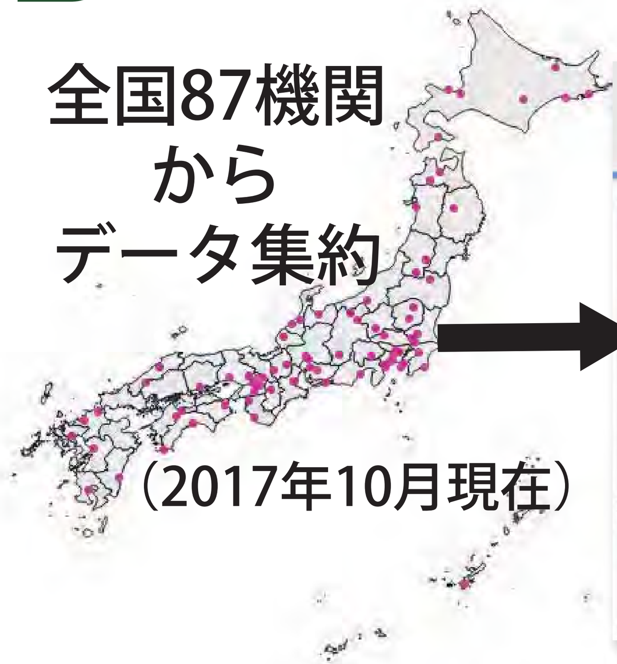
日本全国の博物館・大学からの標本ラベルデータなど
↓
国立科学博物館 → S-Net サイエンスミュージアムネット / GBIF

観察情報・文献情報

植生調査・モニタリング調査、論文からの抽出データなど
↓
東京大学 → 国立遺伝学研究所 → GBIF Global Biodiversity Information Facility

4. サイエンスミュージアムネット (S-Net)

全国87機関から
データ集約



（2017年10月現在）

国内生物多様性情報を日本語で発信
- **4**53万件の自然史標本資料情報の検索
- **生**物多様性情報ツール、辞書の提供
- **研**究員・学芸員情報の検索
- **無**償・登録不要

http://science-net.kahaku.go.jp/

NBRP 機関の皆様へのお願い

リソース採集地データをご提供いただける場合是非お声がけ、もしくは s-net@kahaku.go.jp にご連絡ください。よろしくお願いいたします。

AMED　環境省　文部科学省　NBRP　GBIF　JBIF